

アラムコ沖縄サンゴ礁保全基金によるサンゴ再生・回復に向けた取組について

サウジアラビア王国の国営石油・化学企業サウジアラムコは、災害援助、環境保護や教育などを推進するための支援を全国で行っています。2010年12月、サウジアラムコが日本政府と合意し沖縄県うるま市の沖縄石油基地のタンクを借り受けて開始した石油貯蔵プロジェクトにより、沖縄との関係が深まったことを契機に、沖縄県サンゴ礁保全推進協議会(以下、協議会)のサンゴ礁の保全活動支援が始まりました。本支援は継続して行われ、今年で11年目となります。

この度、協議会とサウジアラムコの日本法人であるアラムコ・アジア・ジャパン株式会社は、サンゴの養殖移植を通してその再生回復に資することを目的として、下記のサンゴの再生・回復活動を行う2つの団体に助成事業を実施することとなりましたのでお知らせいたします。

本事業では、サンゴの養殖・移植だけでなく、サンゴ礁保全に係る普及啓発等を実施するとともに、長期的なサンゴ礁保全再生活動に発展させていくことを目指します。

記

助成事業名：サンゴ養殖移植事業

助成期間：2022年4月1日～2025年3月31日（3年間）

助成団体

1 久米島漁協

○目的

荒廃が進む久米島海域のサンゴ礁を再生させるため、幼生供給基地としてのサンゴ養殖を実施するとともに、周辺海域へ移植するサンゴ種苗を生産する。また、児童、生徒に対するサンゴ苗付け体験などの環境教育を行う。

○内容

- ・サンゴの種：久米島産で入手可能なトゲスギミドリイシ、オヤユビミドリイシ
- ・種苗の数：3年間で600本
- ・普及啓発活動：久米島の児童生徒によるサンゴ苗付け体験、海の環境保全の講話等
- ・広報活動：SNS（Facebook等）を活用し活動状況を発信する。

○実施主体

久米島漁協サンゴ養殖部会

○期待される効果

3～5年後の養殖サンゴの生残率は60%。20～30cmに成長する。養殖場から約4千万のサンゴ幼生が供給される見込み。本事業は、久米島の生物多様性、水産業、観光業に貢献。事業終了後は養殖サンゴの成長部を切り取り周辺海域に移植する。児童生徒に対する苗植え付け体験などの環境教育は、長期的に久米島のサンゴ礁保全再生に貢献。

2 沖縄コンベンションビューロー

○目的

荒廃が進む沖縄本島北部ブセナ岬周辺のサンゴ礁を再生させるため、サンゴ種苗の中間育成、植付けを実施し、生物多様性を向上させるとともに観光資源として利用する。また、普及啓発、広報活動により自然と人間、地域住民と観光客の持続可能な共存を目指す。

○内容

- ・サンゴの種：沖縄本島で入手可能で実績のあるシコロサンゴ、エダコモンサンゴ
- ・種苗の数：3年間で300本
- ・普及啓発活動：沖縄県民と観光客を対象に啓発活動を行う。
- ・広報活動：年間を通して、ホームページ（日・英）、ブログ、Facebookにより活動状況を発信する。

○実施主体

沖縄コンベンションビューロー、ザ・テラスホテルズ

○期待される効果

3～5年後の植付けサンゴの生残率は50%。20～30cmに成長し、多くのサンゴ幼生が供給される見込み。本事業は、沖縄国定海岸公園の付加価値を高めるとともに、観光関連業者がサンゴ礁保全に関わる仕組みを提供することで観光産業に貢献する。また、SDGsやサステイナブルツーリズムにも貢献できる。